

一月二十三日朝 テント村

から出てきたデモ隊が通つたあとのある立ちのみ屋で
アンコAとBのはなし

——「テント虫」ちゅう刷りもの、知ってるやろ？ さっきもらったんやけど。

——ああ知ってるで。花園公園のテント村で出しとるんや。エエこと書いてるわ。

——ワシもぞない思うけどな、ようわからんこともあるよって、ちよと教工てもらいたいわ。オマシはあたまエエけんのう。

——オチヨクッダラアカンデ。せやけど何がわからんちゅうのや？

——ほれ、ここんどこや。ええとテント虫の六号やな。手配師がワシらに対して願

出るとこ。

——升当の工工とこ、よざれ仕事やないヒこ、近うて早よう帰れるとこ、分増しのつくとこ。こんなんを運つて行つたもんや。それでゲタオチのバスは誰れも乗らんと、手配師が呼びこみやつとった。

——そやそや、八時になつても人数があつまらんバスもいたわいな。K組、H組、もひとつのK組、S建設とかな。

——そやからな、ワシらが仕事運つたんと同じで、いま手配師がワシらを運つとるのがつまり乗つけやなと、それを考えさせられたちゅうわけや。

——ほんならオマエ、手配師が乗つけするのん認めるんか？

——認めるいうたらオーパーなこつちやけどな。そこがようわからんのや。

——ふん、わいかてわからんようになってくるわい。けどやで、オマエもわいも生きとるんやからな、乗つけはすされてずつとアア

つけすることが書いたるじやろ。

——乗つけでなあ、仕事行けたらオンの字やけど、オマエはあかんいわれたらハラ立つもんはあ。全港の「大両城」でも乗つけやめろちゅうてよう書いてった、まったくハラ立つこつちやからな。

——そらそうや、ハラ立つだけやのうて、アフレになつてもうたアフレた今日、ワシ考えさせられたんや。

——オマエでもなんぞ考えるときあるんかい？ それ聞かせや？

——手配師はな、いまたしかに乗つけしよるわ、知つとる者、馬力の強そうな者しかつれて行きあらん。けどやで、仕事のぎょうさんあつたときは、ワシらかて仕事を選つたんちがうか？

——うん、そら当りまえのこつちや。ゼニの多いとこ、仕事のらくなとこ、コマワリの

レとつたら死んでまうかな。

——そやねん、しゃあから乗つけはあかんと思うとるけどな、ワシらが仕事運つて行つてたときのことかぶつと浮んできたら、アタマおかしいなるのや。

——あんなあ、オマエのいうこともわかるけどや、手配師とわいらだけのこととて考えたらぞないなつてくるんや。仕事かこないに少のうなつたんは行政が悪いちゅうて、ここにも書いてるやないか。

——行政いうたらなんのことや？

——府うとか市イとか国とかな、役所のことやないか、オマエそれも知らんのか。

——知つとるけどな、そんなら府や市イが仕事出してきて、乗つけもせんとなつたらやな、その代りよざれ仕事でもなんでも、順番に当つたら行かならんようにされてまうやろ？

——ほいでもオマエ、ゼニかせげばいいんどちやうか。ゼニなかつたら酒ものめへん、

めしも食べへん、死んでまうんやで。

——わかつとるんや。わかつとつても何やこうササケない感じがしてなあ。電車チンがのうて歩いてても、氣にくわん現場からトンコしてきるときもあつたやないか。

——あの頃はオマエ、我せは夜勤にも行けたしよ、あした雨でもシノギはつけられた。しかしいまは世の中ちこうてもうたんじや。しやあないわい。

——たしかにしやあないと思うわ。せやけどぞない思う自分がとにかくやりきれんや。ワシも釜では古い方のはずやのに、なんでもこないに甲斐性なしになつたんかなあ。

——なんやオマエ、最後はボヤキかい。

——いいやボヤキはせえへん。ただな、自分がこれと思う仕事で食べたときのことを思うのや。府うとか市イとかの世話になるのん、どうしても好きになれんや。

——世話になるのちがう、要求してそれを通すのや。いつも世の中の一番下っぱで、

——古い古いて言いなや、ただなあ、口惜しいんじやわい。働く氣イもあるウデもあるちゅうのに、なんでアフレて賃屋へ行つてまで酒飲まなあかんのや。なさないわ、ほんまに。

——そんなら茅屋でも行くか、ツルとスゴかついでよ。穴廻りの御用はありまへんかちゅうて廻るのや。府の穴は堀つていらんけどワタシの穴堀つてエないうマタムがいよるか知れへんで。

——あほか、夢みて死ね!

——いいや、死なるとこの次からデモに行くだわい。ほんまに。

(付記)

この話はその場でとつたわずかなメモと記憶によつて再構成したので、コトバのすみずみまでが事実そのままとはいえない。しかし話の主旨な筋みちと意味をとらえてあるのはたしかだと思つてゐる。AもBも三十代半ばくらい、もちろん氏名居所は不詳だ。(記者)

バカにされながら働いてきた者の権利としてや。オマエほんまにわかつとるんかいな?

——わかつとるよ、ようわかつとるよ。

——わかつとる頑やないけど、こんな話、もうやめとこか。

——うん、やめてもう一杯飲もか。飲んで食つてキョウがアニコの蜜玉やもんな。

——オマエはほんまにアタマの古い奴やなあ。

——そやねん、たしかに古いと思うわ。しやあけとやな、古いこと言うたらや、昔おたがいに、刑務所にいた時のこと考えてみいな。メシも食える、フトンもヤネもある、仕事もちゃんときめられとる。けど、そいで満足せえへんかつたやないか。外へ出たい。アオカンしてでも鉄格子と堀はいややと思うとつたやないか。

——あかん、ハナシにならんわ。ムシヨと一緒にするやつがあるかいな。ドタマの古いやつぢやあ、ほんまに。

さて、これを読んで

読者のみなさんは

どう思いましたか?

先日また、センターでピラをもらいました。それには、おれたちに対して「常よう化をおしすすめよう」と書いてあり、大型自動車かなんかの講習の案内がありました。まあ、なんせ今はゲンヤン仕事はほとんどないのは事実、ハンパに入るか、チョッコウでどっかにずつと行くしかないようです。でも、確かに免許でもとつて「シャトル」になれば安定するかもしれないが、果して自由なのでしようか? 「あくせくせんでもものんびりと(金ヶ崎人情)」というのもむずかしうなつたと思ひます。意見をきかせてください。書いて送ってください。

先(郵便番号五五七一九一) 西成郵便局私書箱第三一三号 労働者渡世編集委員会